

2018年 9 月23日 実施

平成30年度（第59回）
情 報 処 理 検 定 試 験
〈プログラミング部門〉
第 2 級 試 験 問 題

注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで，試験問題に手を触れないでください。
2. 試験問題は 9 ページあります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入します。
4. 【1】 【2】 【3】 【4】 【5】 【6】 は共通問題です。
5. 【7】 の問題は J a v a ・ マクロ言語のいずれか一つを選択し，解答用紙の選択言語を ☐ で囲んでください。
6. 電卓などの計算用具は使用できません。
7. 筆記用具などの物品の貸借はできません。
8. 問題用紙の回収については監督者の指示にしたがってください。
9. 制限時間は50分です。

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

【1】 次の説明文に最も適した答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

1. ファイルやディレクトリに対する、追加・更新・削除などのあらゆる操作の許可を与えた権限。
2. ディスプレイやプリンタなどに出力される画像のきめ細かさや滑らかさを表す尺度。
3. 利用者がアプリケーションソフトウェア上で行う操作や処理の手順を、自動化し実行するプログラム言語。
4. 磁気ディスク装置において、アクセスアームを動かさずに読み書きできる同心円状の記憶領域の集まり。
5. コンピュータや電子楽器などの機器を用いて、音程や音の長さなどの演奏情報を記録したファイル形式。

解答群

- | | | |
|-------------|----------|---------|
| ア. MPEG | イ. 書き込み | ウ. MIDI |
| エ. COBOL | オ. シリンダ | カ. 解像度 |
| キ. セクタ | ク. マクロ言語 | ケ. RGB |
| コ. フルコントロール | | |

【2】 次のA群の語句に最も関係の深い説明文をB群から選び、記号で答えなさい。

- <A群> 1. ストリーミング 2. 解凍 3. グローバル変数
 4. SSID 5. サイトライセンス

<B群>

- ア. 無線LANにおいて、アクセスポイントを識別するために設定する文字列。
- イ. コンピュータネットワークを活用し、情報の共有やスケジュール管理などを行うソフトウェア。
- ウ. プログラムの特定の範囲内で宣言され、その範囲内のみで参照することができる変数。
- エ. データの意味や内容を保ったまま記憶容量を小さくしたファイルを、元の状態に戻すこと。
- オ. ネットワークを通じて、クライアント側にあるデータをサーバ側に送信すること。
- カ. プログラムの全体から参照することができる変数。
- キ. データの意味や内容を保ったまま、ファイルの記憶容量を小さくすること。
- ク. ネットワークを通じて、動画や音声などのデータをユーザのコンピュータが受信しながら同時に再生する技術。
- ケ. ファイルの種類を識別するため、ファイル名のピリオド以降に付加される文字列。
- コ. 企業や学校などの限られた範囲において、同一のソフトウェアを複数のコンピュータで使用できる、一括購入の契約形態。

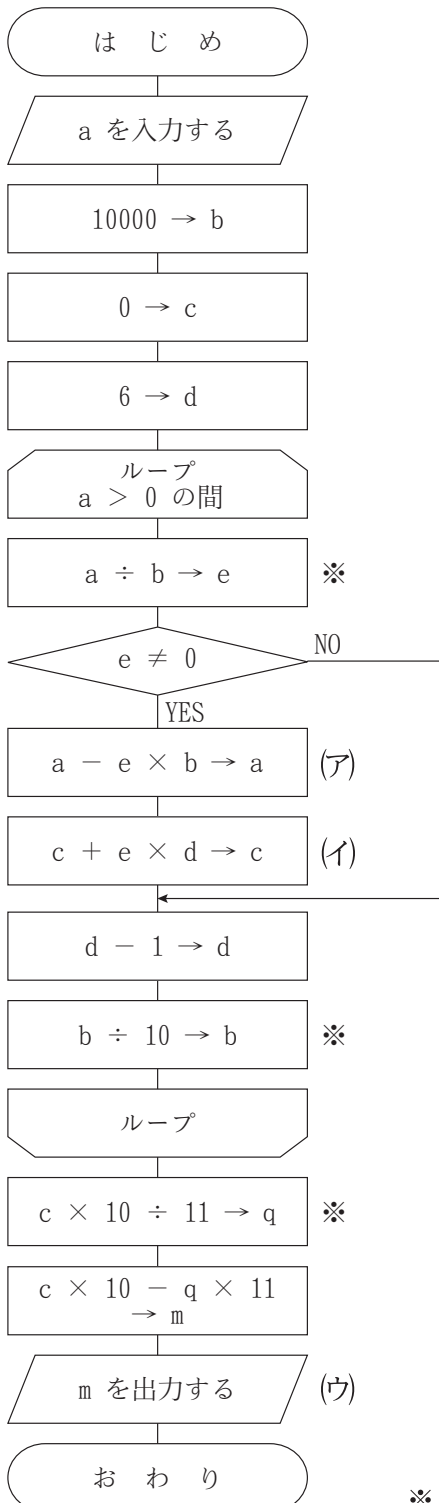
【3】 次の説明文に最も適した答えをア、イ、ウの中から選び、記号で答えなさい。

1. 2進数の110と10進数の8との積を表す2進数。
ア. 1110 イ. 10000 ウ. 110000
2. コンピュータシステムの導入から維持や管理、廃棄にいたるまでにかかる総費用。
ア. イニシャルコスト イ. TCO ウ. ランニングコスト
3. 入力されたデータが、一定の順序に並んでいるかを確認する検査。
ア. シーケンスチェック イ. ニューメリックチェック ウ. トータルチェック
4. 工業製品やマネジメントシステムなどについて、標準規格の策定を行う国際標準化機構。
ア. JIS イ. ISO ウ. ANSI
5. 小説や音楽、コンピュータプログラムなどの、知的創作物を創作した者の権利保護を目的とする法律。
ア. 著作権法 イ. 不正アクセス禁止法 ウ. 個人情報保護法

【 4 】 流れ図にしたがって処理するとき、(1)～(5)を答えなさい。なお、入力する a の値は 10000 以上 99999 以下の整数とする。

- (1) a の値が 12041 のとき、(ア)の処理を 2 回目に実行したあとの a の値を答えなさい。
- (2) a の値が 12041 のとき、(イ)の処理を 4 回目に実行したあとの c の値を答えなさい。
- (3) a の値が 30420 のとき、(ア)の処理を何回実行するか答えなさい。
- (4) a の値が 30420 のとき、(ウ)で出力される m の値を答えなさい。
- (5) 流れ図の処理について説明した文のうち、正しいものはどれかア、イ、ウの中から選び、記号で答えなさい。
 - ア. 出力される m の値は、必ず 10 以下である。
 - イ. 出力される m の値は、必ず奇数である。
 - ウ. 出力される m の値は、必ず偶数である。

<流れ図>



※ 小数点以下切り捨て

【 5 】 流れ図の説明を読んで、流れ図の(1)～(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

あるコンビニエンスストアの開発スイーツ評価データを読み、
開発スイーツ評価一覧をディスプレイに表示する。

入力データ

商品名 (Syohin)	味 (Aji)	見た目 (Mitame)	値ごろ感 (Negoro)
×～×	×××	×××	×××

(第 1 図)

実行結果

(開発スイーツ評価一覧)					
(商品名)	(味)	(見た目)	(値ごろ感)	(評価点)	(備考)
濃いレアチーズ	93	69	60	315	
ダブルシュー	92	93	96	373	○
ふわなまドラ	84	75	81	324	○
}	}	}	}	}	}
ふわとろロール	81	87	69	318	
くりいむわらび	79	80	82	320	○
和ばふえ	57	63	66	243	
				(商品数)	23
				(評価点が320以上の件数)	8
(評価点が最大の商品名) ダブルシュー				(評価点の最大)	373

(第 2 図)

処理条件

- 第 1 図の入力データを読み、評価点を次の計算式で求め、
第 2 図のように表示する。なお、備考は評価点が 320 以上の
場合は ○ を表示する。

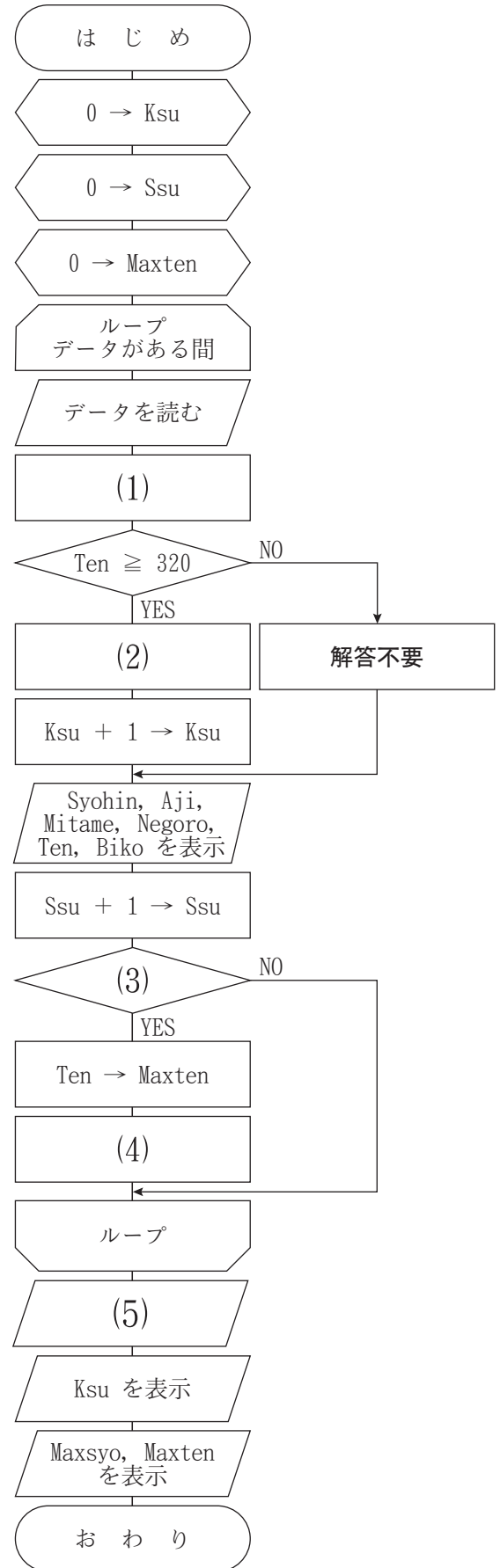
評価点 = 味 × 2 + 見た目 + 値ごろ感

- 入力データが終了したら、商品数、評価点が320以上の件
数、評価点が最大の商品名および評価点の最大を第 2 図の
ように表示する。なお、評価点の最大は同じ評価点があった
場合、先に入力されたデータを優先する。
- データにエラーはないものとする。

解答群

- ア. Ssu を表示
- イ. " " → Biko
- ウ. Syohin → Maxsyo
- エ. $Aji \times 2 + Mitame + Negoro \rightarrow Ten$
- オ. Maxsyo → Syohin
- カ. Ten を表示
- キ. $Ten > Maxten$
- ク. $Aji \times 2 + Mitame + Negoro \rightarrow Ksu$
- ケ. "○" → Biko
- コ. $Ten \geq Maxten$

<流れ図>



【 6 】 流れ図の説明を読んで、流れ図の(1)～(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

あるクラシックギター教室の1か月分の受講データを読み、コース別集計表と曜日別分析表をディスプレイに表示する。

入力データ

会員コード (Kcode)	受講コード (Jcode)	区分 (Kubun)
××××	××	×

(第1図)

実行結果

(コース別集計表)				
	(一般人数)	(学生人数)	(受講人数計)	(受講料計)
(入門)	33	46	79	507,000
(初級)	54	49	103	826,500
(中級)	47	31	78	671,000
(上級)	40	28	68	652,000
	(合計)		328	2,656,500
(曜日別分析表)				
	(一般人数)	(学生人数)	(割合(%))	
(月)	14	11	7.6	
(火)	16	14	9.1	
}	}	}	}	
(土)	36	34	21.3	
(日)	37	26	19.2	

(第2図)

処理条件

- 第1図の受講コードは、次の例のように構成されている。なお、コースは1(入門)～4(上級)、曜日は0(月)～6(日)である。

例 3 2 → 3 2
コース 曜日

- 第1図の区分は、1(一般)と2(学生)である。
- 配列 Ryo に区分が1の場合の1か月分の受講料を記憶する。なお、区分が2の場合、区分が1の受講料から1,000円を値引く。また、Ryoの添字はコースと対応している。

配列

Ryo	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
		7000	8500	9000	10000
	(入門)	(初級)	(中級)	(上級)	

- 第1図の入力データを読み、次の処理を行う。
 - 区分が1の場合はコースごとの受講人数を配列 KInin に、曜日ごとの受講人数を配列 YInin に集計し、区分が2の場合はコースごとの受講人数を配列 KGnin に、曜日ごとの受講人数を配列 YGnin に集計する。なお、KInin、KGninの添字はコースと対応し、YInin、YGninの添字は曜日と対応している。

配列

KInin	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)		
KGnin	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)		
	(入門)	(初級)	(中級)	(上級)			
YInin	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
YGnin	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)

- 入力データが終了したら、次の処理を行う。
 - コースごとの受講人数計と受講料計を次の計算式で求め、コース別集計表を第2図のように表示する。

$$\text{受講人数計} = \text{一般人数} + \text{学生人数}$$

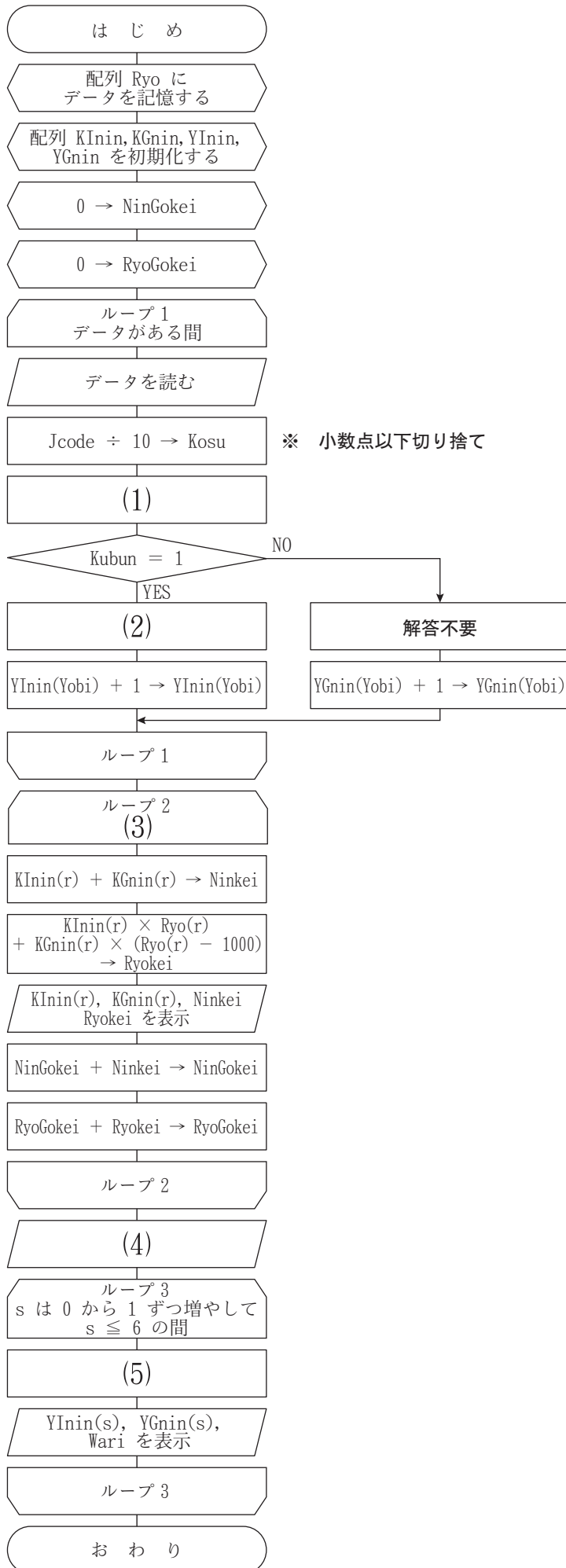
$$\text{受講料計} = \text{一般人数} \times \text{受講料} + \text{学生人数} \times (\text{受講料} - 1000)$$
 - 受講人数計と受講料計の合計を、第2図のように表示する。
 - 曜日ごとの割合(%)を次の計算式で求め、曜日別分析表を第2図のように表示する。

$$\text{割合}(\%) = (\text{一般人数} + \text{学生人数}) \times 100 \div \text{受講人数計の合計}$$
- データにエラーはないものとする。

解答群

- ア. r は 0 から 1 ずつ増やして $r < 4$ の間
 イ. Jcode - Kosu $\times 10 \rightarrow$ Yobi
 ウ. r は 1 から 1 ずつ増やして $r \leq 4$ の間
 エ. (YInin(s) + YGnin(s)) $\times 100 \div$ RyoGokei $\rightarrow$ Wari
 オ. NinGokei, RyoGokei を表示
 カ. Jcode + Kosu $\times 10 \rightarrow$ Yobi
 キ. KInin(Kosu) + 1 $\rightarrow$ KInin(Kosu)
 ク. Ninkei, Ryokei を表示
 ケ. (YInin(s) + YGnin(s)) $\times 100 \div$ NinGokei $\rightarrow$ Wari
 コ. KInin(Yobi) + 1 $\rightarrow$ KInin(Yobi)

< 流れ図 >



【7】 プログラムの説明を読んで、プログラムの(1)～(5)を答えなさい。

<プログラムの説明>

処理内容

スマートフォンのリユース販売を行う会社の、ある月に買い取りを行った商品データを読み、集計結果を表示する。

入力データ

商品データ（ファイル名：syohin.csv）

店舗番号	メーカー番号	プロダクト番号	販売価格	区分番号
×	×	×	×	×

(第1図)

実行結果

店舗番号を入力してください => 1

新宿店

メーカー名	販売価格計	販売台数	平均販売価格
A 社	1,650,700円	123台	13,420円
B 社	4,722,100円	385台	12,265円
}	}	}	}
F 社	1,101,700円	62台	17,769円
その他	3,968,300円	252台	15,747円
合 計	18,456,400円	1,179台	
売れ残り台数	473台	うち値下げ対象台数	79台

店舗番号を入力してください => 2

秋葉原店

}

店舗番号を入力してください => 0

(第2図)

処理条件

- 第1図の商品データは、リユーススマートフォン1台につき1件のデータが記録されている。なお、店舗番号は1（新宿店）～4（原宿店）の4種類である。また、区分番号が1の場合は販売済み、2の場合は売れ残り、3の場合は売れ残りかつ値下げ対象とされた商品であることを意味する。
- 配列 tm に店舗名を記憶する。なお、tm の添字は店舗番号と対応している。

配列

tm	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
		新宿店	秋葉原店	新橋店	原宿店

- 店舗ごとの販売情報を管理する Tenpo クラスをインスタンス化し、配列 tp に記憶する。なお、tp の添字は配列 tm の添字と対応している。

配列

tp	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)

- 配列 mb にメーカー番号を、配列 mm にメーカー名を記憶する。なお、mm(7) には その他 を記憶する。また、mb と mm の添字は対応している。

配列

mb	(0)	(1)	(2)	～	(6)	
		45	26	～	24	
mm	(0)	(1)	(2)	～	(6)	(7)
		A 社	B 社	～	F 社	その他

- 第1図の商品データを読み、次の処理を行う。
 - 区分番号が1の場合はメーカー番号をもとに配列 mb を探索し、配列 hKin に販売価格を集計し、配列 hDai に販売台数を求める。ただし、メーカー番号が見つからなかった場合は hKin(7) に販売価格を集計し、hDai(7) に販売台数を求める。なお、hKin(0)、hDai(0) には合計を求める。また、hKin、hDai の添字は mb の添字と対応している。

配列

hKin	(0)	(1)	(2)	～	(6)	(7)
				～		
(合計)						
hDai	(0)	(1)	(2)	～	(6)	(7)
				～		
(合計)						

- データを読み終えたあと、キーボードから店舗番号が入力されたら、次の処理を行う。
 - メーカーごとに平均販売価格を次の計算式で求め、集計結果を第2図のようにディスプレイに表示する。

$$\text{平均販売価格} = \text{販売価格計} \div \text{販売台数}$$
 - 販売価格計と販売台数の合計を、第2図のようにディスプレイに表示する。
 - 売れ残り台数と売れ残り台数のうち値下げ対象となる台数を、第2図のようにディスプレイに表示する。
- キーボードから 0 が入力されたら処理を終了する。

< J a v a プログラム >

```
//クラスTenpo
public class Tenpo {
    public static int[] mb = { 0, 45, 26, ~ 24 };
    public static String[] mm = { "", "A 社", "B 社", ~ "F 社", "その他" };
    public String tMei;
    public int[] hKin = new int[8];
    public int[] hDai = new int[8];
    public int zDai;
    public int nsDai;
    public Tenpo(String tMei) {
        this.tMei = tMei;
    }
    public void syukei(int mBan, int hKakaku, int kBan) {
        if(kBan == 1) {
            int g = 1;
            while(g < 7 && (1)) {
                g = g + 1;
            }
            hKin[g] = hKin[g] + hKakaku;
            hDai[g] = hDai[g] + 1;
            hKin[0] = hKin[0] + hKakaku;
            hDai[0] = (2);
        } else if(kBan == 2) {
            zDai = zDai + 1;
        } else {
            zDai = zDai + 1;
            nsDai = nsDai + 1;
        }
    }
    public void output() {
        System.out.println(tMei);
        System.out.println(" メーカー名 販売価格計 販売台数 平均販売価格");
        for(int i = 1; i <= 7; i++) {
            int hei = (3);
            System.out.printf(" %-3s %13d円 %5d台 %7d円¥n", mm[i], hKin[i], hDai[i], hei);
        }
        System.out.printf(" 合 計%14d円 %6d台¥n", hKin[0], hDai[0]);
        System.out.printf(" 売れ残り台数 %5d台 うち値下げ対象台数 %3d台¥n", zDai, (4));
    }
}

//クラスHanbaiBunseki
import java.io.BufferedReader;

public class HanbaiBunseki {
    public static Tenpo[] tp = new Tenpo[5];
    public static void main(String[] args) throws IOException {
        String[] tm = { "", "新宿店", "秋葉原店", "新橋店", "原宿店" };
        for(int j = 1; j <= 4; j++) {
            tp[j] = new Tenpo(tm[j]);
        }
        BufferedReader fileIn = new BufferedReader(new FileReader("syohin.csv"));
        String line;
        while((line = fileIn.readLine()) != null) {
            String[] str = line.split(",");
            int tBan = Integer.parseInt(str[0]);
            int mBan = Integer.parseInt(str[1]);
            int pBan = Integer.parseInt(str[2]);
            int hKakaku = Integer.parseInt(str[3]);
            int kBan = Integer.parseInt(str[4]);
            tp[tBan].syukei(mBan, hKakaku, kBan);
        }
        fileIn.close();
        Scanner sc = new Scanner(System.in);
        System.out.print("店舗番号を入力してください => ");
        int tb = sc.nextInt();
        while(tb != 0) {
            (5);
            System.out.print("店舗番号を入力してください => ");
            tb = sc.nextInt();
        }
        sc.close();
    }
}
```


【7】 プログラムの説明を読んで、プログラムの(1)～(5)を答えなさい。

＜プログラムの説明＞

処理内容

ある紳士服販売店の商品データと 1 か月分の販売データを読み、集計結果を表示する。

入力データ

商品データ（ファイル名：syohin.csv）

商品コード	分類コード	単価
××××××	×	×～×

(第 1 図)

販売データ（ファイル名：hanbai.csv）

日付	商品コード	数量
××××	××××××	×

(第 2 図)

ユーザーフォーム・実行結果

＜分類別集計＞

分類名	販売金額計
スーツ	4,323,000
フォーマル	2,685,000
ジャケット	1,110,000
ベスト	462,000
コート	711,000
シャツ	355,000
ネクタイ	624,000
アクセサリ	1,479,000
合 計	11,749,000

(Label1)

入力欄

表示したい分類コード (TextBox1)

分類名 (Label2)

＜分類内商品別集計＞

商品コード	数量	販売金額	比率	判定
LSU101	10	570,000	13.1	◎
MSU107	1	30,000	0.6	△
MSU103	9	459,000	10.6	◎
LSU110	7	189,000	4.3	
平 均		216,150		

(TextBox2)

表 示

ク リ ア

終 了

(第 3 図)

処理条件

- 第 1 図の分類コードは、1（スーツ）～8（アクセサリ）であり、商品データの件数は150件である。
- ユーザーフォーム初期化時に次の処理を行う。

- 配列 Bmei に分類名を記憶する。なお、Bmei の添字は分類コードと対応している。

配列

Bmei	(0)	(1)	(2)	～	(7)	(8)
		スーツ	フォーマル	～	ネクタイ	アクセサリ

- 第 1 図の商品データを読み、配列 Sco に商品コードを、配列 Bco に分類コードを、配列 Tanka に単価を記憶する。なお、Sco, Bco, Tanka の添字は対応している。

配列

Sco	(0)	(1)	(2)	～	(149)	(150)
		LAK801	MCO303	～	MVE404	LFO204
Bco	(0)	(1)	(2)	～	(149)	(150)
		8	3	～	4	2
Tanka	(0)	(1)	(2)	～	(149)	(150)
		7500	35000	～	10000	45000

- 第 2 図の販売データを読み、商品コードをもとに配列 Sco を探索し、配列 Su に数量を集計する。なお、Su の添字は Sco の添字と対応している。

配列

Su	(0)	(1)	(2)	～	(149)	(150)
				～		

- 分類ごとに販売金額を次の計算式で求め、配列 Bkin に集計する。なお、Bkin(0) には合計を求める。また、Bkin の添字は分類コードと対応している。

$$\text{販売金額} = \text{数量} \times \text{単価}$$

配列

Bkin	(0)	(1)	(2)	～	(7)	(8)
				～		

(合計)

- データを読み終えたあと、分類ごとに分類名と販売金額計を Label1 に表示する。
 - 販売金額計の合計を Label1 に表示する。
- 第 3 図のように、表示したい分類コードを TextBox1 に入力し、「表示」ボタンをクリックすると次の処理を行う。
 - 分類名を Label2 に表示する。
 - 表示したい分類に該当する商品について、商品コードごとに販売金額を次の計算式で求める。

$$\text{販売金額} = \text{数量} \times \text{単価}$$
 - 比率を次の計算式で求め、判定は比率が 10 以上の場合は ◎ を、1 以下の場合は △ とする。

$$\text{比率} = \text{販売金額} \times 1000 \div \text{販売金額計} \div 10$$
 - 商品コードから判定までを TextBox2 に表示する。
 - 販売金額の平均を次の計算式で求め、TextBox2 に表示する。

$$\text{平均} = \text{販売金額計} \div \text{商品件数}$$

```
Option Explicit
Dim Bmei(8) As String, Sco(150) As String, Bco(150) As Long, Tanka(150) As Long, Su(150) As Long, Bkin(8) As Long

Private Sub UserForm_Initialize()
    Dim i As Long, Hi As Long, Scode As String, Suryo As Long, Soe As Long, BHkin As Long, Bcode As Long, j As Long
    Bmei(1) = "スーツ": Bmei(2) = "フォーマル": ~ Bmei(7) = "ネクタイ": Bmei(8) = "アクセサリ"
    Label1.Caption = ""
    Call Syokika
    Open ThisWorkbook.Path & "\$syohin.csv" For Input As #1
    Do While Not EOF(1)
        i = i + 1
        Input #1, Sco(i), Bco(i), Tanka(i)
    Loop
    Close #1
    Open ThisWorkbook.Path & "\$hanbai.csv" For Input As #2
    Do While Not EOF(2)
        Input #2, Hi, Scode, Suryo
        Soe = 1
        Do While [ ] (1)
            Soe = Soe + 1
        Loop
        Su(Soe) = Su(Soe) + Suryo
        BHkin = Suryo * Tanka(Soe)
        Bcode = Bco(Soe)
        Bkin(Bcode) = Bkin(Bcode) + BHkin
        Bkin(0) = [ ] (2)
    Loop
    Close #2
    For [ ] (3)
        Label1.Caption = Label1.Caption & Bmei(j) & " " & Format(Format(Bkin(j), "##,###,##0"), "@@@@@@") & Chr(13) & Chr(10)
    Next j
    Label1.Caption = Label1.Caption & " 合 計 " & Format(Format(Bkin(0), "###,###,##0"), "@@@@@@")
End Sub

Private Sub 表示_Click()
    Dim Bunrui As Long, i As Long, SHkin As Long, Hiritu As Single, Han As String, Sken As Long, Heikin As Long
    TextBox2.Text = ""
    Bunrui = Val(TextBox1.Text)
    Label2.Caption = Bmei(Bunrui)
    For i = 1 To 150
        If Bco(i) = Bunrui Then
            SHkin = Su(i) * Tanka(i)
            Hiritu = Int(SHkin * 1000 / Bkin(Bunrui)) / 10
            If Hiritu >= 10 Then
                Han = "◎"
            ElseIf Hiritu <= 1 Then
                Han = "△"
            Else
                Han = " "
            End If
            TextBox2.Text = TextBox2.Text & Sco(i) & " " & Format(Format([ ] (4), "##0"), "@@@" ) & " " & Format(Format(SHkin, "##,###,##0"), "@@@@@@") & " " & Format(Format(Hiritu, "#0.0"), "@@@") & " " & Han & Chr(13) & Chr(10)
            Sken = Sken + 1
        End If
    Next i
    Heikin = [ ] (5)
    TextBox2.Text = TextBox2.Text & " 平 均 " & Format(Format(Heikin, "#,###,##0"), "@@@@@@")
End Sub

Private Sub クリア_Click()
    Call Syokika
End Sub

Private Sub 終了_Click()
    End
End Sub

Private Sub Syokika()
    TextBox1.Text = ": TextBox2.Text = ": Label2.Caption = ""
End Sub

(注) 使用例 Format(Format(1234.5, "###,##0.0"), "000000000")
          └─┬──┘
          └─┬──┘
          └─┬──┘
```

(平成30年 9 月23日実施)

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

平成30年度（第59回）情報処理検定試験プログラミング部門 第2級
解 答 用 紙

【1】

1	2	3	4	5

【2】

1	2	3	4	5

【3】

1	2	3	4	5

小 計

【4】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
		回		

【5】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

【6】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

小 計

..... [J a v a] ・ [マ ク ロ 言 語]

【7】

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

試験場校名	受 験 番 号	選 択 言 語	
		J a v a	マ ク ロ 言 語

小 計

合 計

選択言語を で囲むこと

(平成30年 9 月23日実施)

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

平成30年度（第59回）情報処理検定試験プログラミング部門 第2級
審 査 基 準

【1】

1	2	3	4	5
コ	カ	ク	オ	ウ

各2点
計10点

【2】

1	2	3	4	5
ク	エ	カ	ア	コ

各2点
計10点

【3】

1	2	3	4	5
ウ	イ	ア	イ	ア

各2点
計10点

小 計
30

【4】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
41	30	3 回	4	ア

各3点
計15点

【5】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
エ	ケ	キ	ウ	ア

各3点
計15点

【6】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
イ	キ	ウ	オ	ケ

各3点
計15点

小 計
45

..... [J a v a] ・ [マ ク ロ 言 語]

[J a v a] (注) =, 演算子の前後の空白は問わない。

【7】

(1)	m b [g] ! = m B a n
(2)	h D a i [0] + 1
(3)	h K i n [i] / h D a i [i]
(4)	n s D a i
(5)	t p [t b] . o u t p u t ()

[マ ク ロ 言 語] (注) 大文字, 小文字および=, 演算子の前後の空白は問わない。

【7】

(1)	S c o (S o e) < > S c o d e
(2)	B k i n (0) + B H k i n
(3)	j = 1 T o 8
(4)	S u (i)
(5)	B k i n (B u n r u i) / S k e n

各5点 計25点

小 計
25

合 計
100